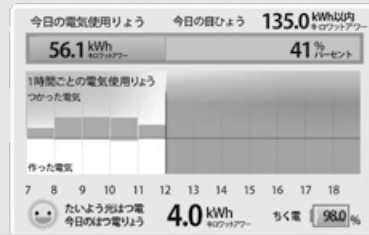


電気使用量や発電量などが確認できる「電力の見える化」の一例



みんなで考えよう  
再生可能エネルギーセミナー

再生可能エネルギーの導入・推進に向けた波力発電の取り組みや、「電力の見える化」などについて理解を深め、地域でのあり方を考えるセミナーを開催します。

▶日時…12月16日(月)14:30~  
▶場所…久慈グランドホテル  
▶内容…①東京大学生産技術研究所・丸山康樹特任教授の講演②事例発表  
▶申込期限…12月9日(月)  
▶産業開発課 ☎52-2369

フィリピン台風  
救援金を募集

日本赤十字社ではフィリピンを支援する救援金を募集しています。本庁及び各支所に募金箱を設置しているほか、郵便局から送金もできます。

▶受付期限…平成26年2月28日  
▶社会福祉課 ☎52-2119

久慈橋  
全面通行止め  
12.9(月)~13(金)

補修設計調査のため次の期間、久慈橋が全面通行止めになります。

▶期間…12月9日(月)~13日(金)  
※調査終了次第通行止めは解除  
▶時間…9時~16時  
▶土木課 ☎52-2124



NEWS  
国民健康保険山形診療所に医師着任  
健康なうちは医療で貢献

11月1日付けで、国民健康保険山形診療所所長に大森協司医師が着任しました。

新潟県出身の大森医師は、昭和46年に新潟大学医学部医学科を卒業。国立長野病院など複数の医療機関の外科医勤務を経て、昭和56年からは千葉県市川市で医院を開院し、平成24年12月まで診療を行ってきました。

その後も「医師として、健康なうちは医療を必要としている地域でお役に立ちたい」という思いがあった大森医師。市の医師確保活動を知り、このたび診療所での勤務が実現しました。

大森医師の着任で、市民の健康と命を守る診療所に頼もしい力が加わり、健康増進の意識の高まりが期待されます。

**健診・リハビリ指導に尽力したい**

診療所のスタッフと協力し、少しでも患者さんや地域の皆様のお役に立ちたいと思っています。歩いて通院できる患者さんが増えるように、健診やリハビリ指導に力を入れていきたいです。

【主な経歴】70歳。専門は外科。昭和46年に医師免許を取得し、関東地方の医療機関で勤務した後、千葉県市川市で開業した

大森協司 医師

INFO  
除雪作業にご協力を  
▶下記担当（道路によって担当は異なります）

- 路上駐車はやめましょう**  
路上駐車があると、除雪車が前に進めなくなったり、雪をかぶった車に追突して事故を起こす恐れがあります。
- 道路への雪出しは通行の妨げ**  
歩行者や車の通行の妨げになりますので、やめましょう。
- 枝の伐採はお早めに**  
雪の重みで枝が垂れ下がると除雪や通行の妨げになります。支障の恐れがある枝などの伐採にご協力ください。
- 玄関前などご家庭で**  
除雪には細心の注意を払っていますが、除雪車が通った後、玄関前に雪が残るなど大型重機での除雪には限界があります。玄関前や私道、歩道、消火栓の周りをご家庭や地域のご協力をお願いします。
- 凍結抑制剤などの散布**  
坂道などには凍結抑制剤入りの砂缶などを設置していますので、散布にご協力をお願いします。また必要に応じて、個別に凍結抑制剤を提供しますので、行政連絡区長を通じてお問い合わせください。
- 公共交通の利用を**  
バス路線を優先的に除雪します。雪道の渋滞を緩和するため、できるだけ公共交通機関を利用しましょう。
- 路面状況に合った運転を**  
路面状況に合ったスピードと安全運転を心掛けましょう。

**除雪の担当**

- 国道45号  
三陸国道事務所久慈維持出張所 ☎53-2790
- 国道281号・395号・県道  
東北広域振興局土木部 ☎53-4990
- 市道  
土木課 ☎52-2124  
産業建設課 ☎72-2129

NEWS  
平山小学校が創立120周年  
児童と地域から喜びと感謝の声



歴代の学校長に感謝状を贈呈

式典終了後、参加者が見守る中、タイムカプセルの封印が行われ、未来の自分にあてた児童の手紙や絵画、教員からのメッセージなどを入れたカプセルを、児童の代表が丁寧に封印しました。

川端恵里花さん（5年）は「ふるさとの久慈市で30年後も笑顔で暮らしていきたいです。カプセルの開封には必ず参加したいです」と30年後に期待を寄せました。

10月26日、平山小学校（菊池博文校長、児童87人）で創立120周年記念式典（同実行委員会主催）が行われ、児童や卒業生など約210人が出席しました。

初めに菊池校長が「歴史と伝統は学校だけのものではなく、地域の願いが培ってきたものです」と式辞。続いて播磨忠一実行委員長が「子どもたちが健やかに成長している様子を喜ばしく思います」とあいさつしました。

式典では100周年以降の歴代の校長とPTA会長に感謝状を贈呈。また、山内隆文市長と亀田公明教育長が来賓を代表して祝辞を述べました。その後、児童らが120周年を迎えた学校へおめでとうとありがたいの気持ちを込めた「喜びの言葉」を発表し、合唱や合奏を披露。最後は参加者全員で校歌を斉唱し、150周年に向けて思いを新たにしました。



タイムカプセルの封印をする児童たち

NEWS  
地産地消ふれあい給食の日  
地元で捕れたサケを学ぶ



おいしい地元のサケにっこり

「鮭の日」の11月11日、地元で捕れたサケを使った料理を児童たちに提供する「鮭の日学校給食」を市内の小中学校で実施。児童たちの給食には「鮭のチャンチャン焼き」が並びました。

この日に合わせ生産者と児童が一緒に給食を食べる「地産地消ふれあい給食」が小国小学校（菅原徹校長、児童9人）で行われ、児童たちは地元食材への理解と生産者との交流を深めました。

給食会には、県や市、市漁業協同組合の担当者などが参加。児童たちは参加者と並んで会食し、チャンチャン焼きの名前の由来や学校生活のことなどを話しながら、地元の味覚を味わいました。



サケの大きさに驚く児童たち

給食後の勉強会では、バランスの良い食事の大切さのほか、久慈で捕れるサケの特徴やサケの一生、卵のふ化や稚魚の放流などの取り組みについて学びました。また、朝に捕ったばかりの雄と雌のサケが1匹ずつ教室に持ち込まれ、児童たちは口先やひれなどの形の違いを確認したり、実際に持ち上げて重さや感触を確かめたりしていました。

清水畑彩花さん（6年）は、「成長して元の川に戻ってくるのは、放流した稚魚の1割だけと聞いて驚きました。サケが生き抜くことはとても大変なことだと思います」と感心していました。